

## 愛媛・別府遺跡

べっぷ

所在地 愛媛県北条市別府

2 調査期間 一〇〇一年(平13)八月～二月

3 発掘機関 財愛媛県埋蔵文化財調査センター

4 調査担当者 伊賀上淳

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

別府遺跡は、東方の高繩山系から西方の斎灘へ流れる河野川と高山川に挟まれた位置に所在し、両河川の浸食・堆積によって形成された扇状地及び扇状地性氾濫原上に立地する。調査区の標高は約二〇～二二メートルである。

調査は1～3区に分割して行ない、木簡は2区から出土した。

2区で検出した遺構としては、掘立柱建物・柵列・土坑・溝・自然流路・井戸

などがある。掘立柱建物は、棟方向をほぼ東西とする「間×間」である。遺物は概ね、一二世紀末から一四世紀前半、一四世紀末から一五世紀前半、一五世紀末から一六世紀前半のものが、遺構及び包装層から出土した。自然流路からは、縄文晩期から古代までの遺物が出土している。

木簡は、井戸SEOO一から一点、井戸SEOO四から二点出土した。SEOO一は素掘りの井戸で、堆積状況から最下部に曲物があつたと考えられる。一方、SEOO四是石組みの井戸であるが、石組みは一段しか残存していない。最下部には曲物があり、こぶし大の礫が敷き詰められている。この他、木簡は出土しなかつたが、井戸SEOO一、井戸SEOO三を検出している。井戸SEOO一は石組みの井戸である。最下部にはこぶし大の礫が敷き詰められている。井戸SEOO三も石組みの井戸である。断面の観察から、おそらく最下部に曲物があつたと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

### 井戸SEOO四

(1)

・「▽迷故」界城 悟故十方空 南無□伽用

・「△本來無東西 何處有南北」

南無□□□ (210)×26×3 061



(松山北部)

1 所在地

2 調査期間

3 発掘機関

4 調査担当者

5 遺跡の種類

6 遺跡の年代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

8 木簡の釈文・内容

9

- (2) • 「」  
 • 「」
- 井匂の木〇〇一
- (3) • 
- 244×38.5×4 061
- (144)×13×2.5 059
- (1) (2)は塔婆である。(1)は下部が欠損する。墨痕は一部を除き、表裏ともに明瞭である。頭部には両側から切り込みが入る。
- (2)はほぼ完存するが、墨痕は表裏ともに不明瞭である。頭部には両側から切り込みが入る。形状からみて(1)と同様の塔婆であろう。
- (3)は上部が欠損する。墨痕は表裏ともに不明瞭である。

関係文献

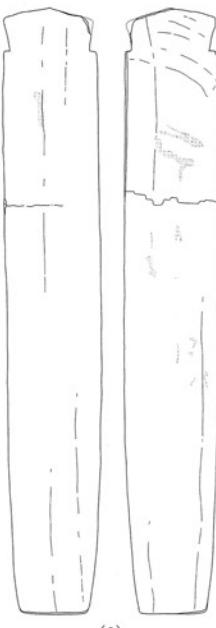
財)愛媛県埋蔵文化財調査センター『愛比壳 平成一二三年度年報』

((1001)年)

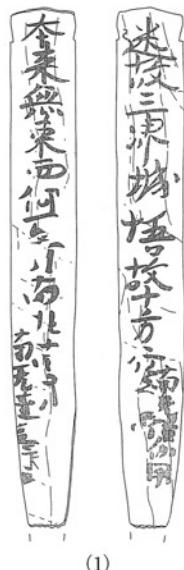
((好裕之))



(3)



(2)



(1)